

NISA 概要レポート 2025 年第 1 四半期

投資信託への純資金流入額、史上初 5 兆円超え

昨年の売れ筋ファンド、今年は売られすぎ？

モーニングスター・マネジャー・リサーチ

2025 年 4 月

目次

- 2 NISA 買付額、政府目標達成
- 3 資金フロー動向
- 9 まとめ

元利 大輔
モーニングスター・ジャパン
マネジャーリサーチ部長
daisuke.motori@morningstar.com

水田 理沙
モーニングスター・ジャパン
マネジャー・リサーチ部
アナリスト
risa.mizuta@morningstar.com

重要事項

Morningstar のアナリストの行為は、倫理規程/職業行為規範ポリシー、個人の証券等取引（またはこれに準ずる）ポリシーおよび投資調査ポリシーによって規定されています。利益相反に関する詳細については、以下をご覧ください。

global.morningstar.com/company/disclosures

主なポイント

- ▶ NISA 買付額は政府目標を達成。2024 年の年間買付額は 17.4 兆円を超え、同年末時点の累積買付額は 52.7 兆円、主要証券 10 社の 1-2 月の統計を踏まえると、2025 年第 1 四半期に政府目標の 56 兆円を突破。
- ▶ 「貯蓄から投資へ」の流れは本格化しているのか分析が必要。成長投資枠の利用が多く、従来の投資を NISA へ移行したことも考えられるため、売却率を含めた詳細な分析が不可欠。
- ▶ 2025 年第 1 四半期の投資信託への純資金流入は 5 兆円を超え過去最高を記録、NISA 対象ファンドが資金流入を牽引。NISA 非対象ファンドの設定額も増加傾向にあり、NISA 以外での投資信託販売も好調を維持。
- ▶ 2025 年第 1 四半期も、「eMAXIS Slim 米国株式（S&P500）」と「eMAXIS Slim 全世界株式（オール・カントリー）」が圧倒的な資金流入を記録し、人気ファンドの顔ぶれは大きく変わらなかった。一方で、非上場資産に投資する「野村マッコーリー・プライベート・インフラ・ファンド」など、新たなタイプのファンドも注目を集めている。
- ▶ 1 年前は人気を集めていた半導体関連株式ファンドとインド株式ファンドは、市場の不安定さから資金流出に転じ、ブームが終焉した様子が見られる。半導体関連株式ファンドの一部は、設定から日が浅いものがあり、それらは「売られすぎ」の可能性もある。これらのファンドは、長期的な成長ストーリーを訴求したものが多く、今後の動向を注視する必要がある。
- ▶ 米国・世界株式インデックス・ファンドを中心に株式型への資金集中の流れは変わっていない。一方、2024 年第 4 四半期から引き続き、不確実性の高まりから金への資金流入が見られた。円ヘッジ型の外国株式・債券ファンドからは資金流出となったが、今後の金利動向によっては、円ヘッジ型ファンドも投資対象として検討する価値がある。

NISA 買付額、政府目標達成：貯蓄から投資への流れは本物か？

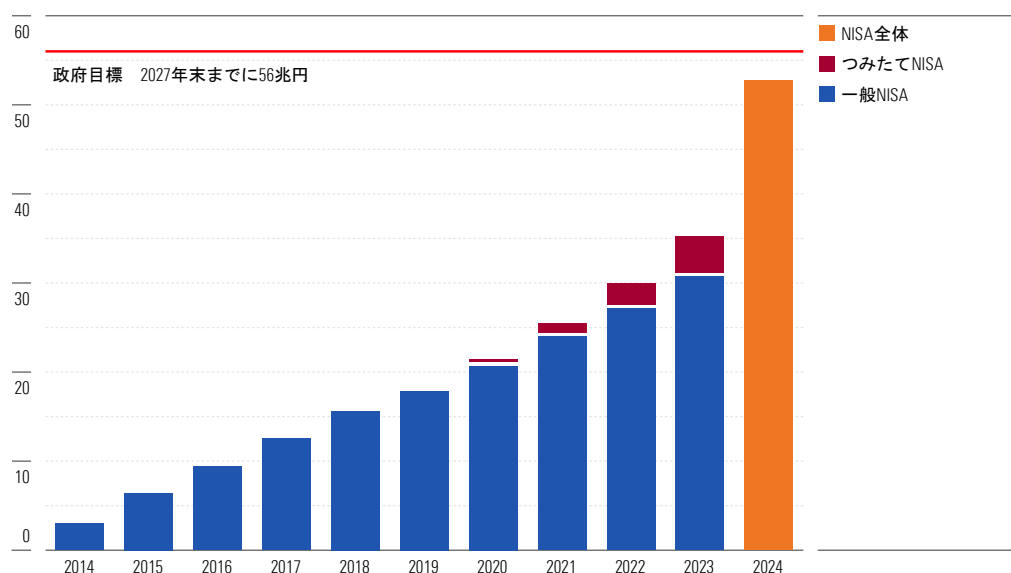
金融庁が 2025 年 2 月に公表した NISA 利用状況（速報値）によると、2024 年の年間 NISA 買付額は 17 兆 4,485 億円に達した。また、2014 年の NISA 制度開始来の累積買付額は 52 兆 7,024 億円となり、政府目標である 2027 年末までの 56 兆円達成が目前に迫っていた。

日本証券業協会が 3 月に公表したデータによると、主要証券会社 10 社の 2025 年 1-2 月の NISA 買付額が 3.8 兆円となることから、2025 年第 1 四半期で政府目標に到達したことは確実である。目標を大幅に前倒しで達成したことは、一見すると「貯蓄から投資へ」の流れが定着したことを示唆する。

しかし、本当にそうであろうか。つみたて投資枠を通じた投資は着実に拡大しているものの、買付全体に占める割合は 3 割程度と推計される。すなわち、NISA 買付額の多くは成長投資枠を通じたものであり、新 NISA による非課税枠の大幅拡大を背景に、従来の投資を NISA に移行した投資家は少なくないと考えられる。

また、これまでのレポートでも述べてきたように、国民の資産形成という制度の趣旨に沿って NISA が活用されているかを判断するためには、買付額のみならず売却率の分析が必要不可欠である。今後公表される確報値には、より詳細なデータが含まれる見込みであり、それらの分析を通じて、NISA の利用状況を多角的に評価する予定である。

図表 1 NISA 累積買付額の推移



出所: 金融庁公表資料より Morningstar Research が作成

資金フロー動向

全体

2025 年第 1 四半期（1-3 月）の日本籍公募株式追加型投資信託への純資金流入額（設定額から解約・償還額を差し引いた金額）は 5 兆 3,487 億円に達した。四半期ベースで純資金流入額が 5 兆円を超えるのは史上初であり、前年同期比で 1 兆円以上の増加を示し、2025 年も好調な滑り出しとなった。

この資金流入を牽引しているのは、NISA である。分析対象のユニバースを一般公販ファンド（約 4,300 本）に限定した場合¹、第 1 四半期の一般公販ファンドへの純資金流入額は 4 兆 8,124 億円となり、そのうち NISA 対象ファンド（成長投資枠およびつみたて投資枠の対象ファンド）への純資金流入額は 4 兆 3,423 億円であった。

昨年とは異なり、NISA 非対象ファンドにも第 1 四半期は 4,701 億円の純資金流入が見られた。ただし、これは一部の NISA 非対象ファンドが純資金流入を牽引した結果であり、大部分の NISA 非対象ファンドに関しては、個人投資家の一部資金が NISA 対象ファンドにシフトしたと推測される。

設定額（販売額）は、2025 年 1-2 月²において、分析対象全体で 6 兆 9,073 億円、NISA 対象ファンドは 5 兆 5,888 億円、NISA 非対象ファンドは 1 兆 3,185 億円となった。NISA 非対象ファンドの設定額は、従来と同様にユニバース全体の約 2 割を占めており、また前年同期より約 3,000 億円増加している。この結果から、NISA 以外の投資信託販売は、引き続き好調に推移していると言える。

図表 2 純資金流入額の推移（億円）

ユニバース	第 1 四半期累計	前年同期	2025 年 1 月	2025 年 2 月	2025 年 3 月
全ファンド	53,487	39,537	21,250	16,131	16,105
うち NISA 対象	43,870	38,058	19,286	12,161	12,423
分析対象ファンド	48,124	34,646	19,333	14,424	14,367
うち NISA 対象	43,423	37,772	19,152	11,945	12,326
うち NISA 非対象	4,701	-3,126	181	2,479	2,041

出所: Morningstar Direct および投資信託協会より Morningstar Research にて計算。

1-2 月の純資金流入額は実績値、3 月の純資金流入額は推計値。（以降も同じ）

図表 3 設定額の推移（億円）

ユニバース	2025 年 1-2 月	前年同期	2025 年 1 月	2025 年 2 月
分析対象ファンド	69,073	62,434	39,522	29,551
うち NISA 対象	55,888	52,266	33,257	22,631
うち NISA 非対象	13,185	10,168	6,265	6,921

出所: Morningstar Direct および投資信託協会より Morningstar Research にて計算。前年同期は 2024 年 1-2 月の合計値。

1 個人投資家の意思決定に関する資金フローのトレンドを分析するため、確定拠出年金専用ファンドおよび SMA/ファンドラップ専用を除外している。

2 本レポート執筆時点では実績の設定額が公表されていないため 2 月までの集計値を用いている。

純資金流入上位ファンド

2025 年も、人気ファンドの顔ぶれは大きく変わらない。三菱 UFJ アセットの「eMAXIS Slim 米国株式 (S&P500)」と「eMAXIS Slim 全世界株式 (オール・カントリー)」の 2 ファンドは、他ファンドを大きく引き離し、それぞれ 7,000 億円を超える圧倒的な純資金流入となった。「全世界株式 (オール・カントリー)」は前年同期並みの流入額を維持し、「米国株式 (S&P500)」は前年同期比 2,000 億円以上の流入額増加を記録した。これら 2 ファンドに次ぐ人気ファンドも、従来と同様に、NISA 非対象の毎月分配型投資信託である「アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 D コース毎月決算型 (為替ヘッジなし) 予想分配金提示型」と「インベスコ世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし> (毎月決算型) であった) であった。これら 4 ファンド以外にも、1,000 億円超の純資金流入を記録した上位ファンドが複数存在し、株式型ファンドが資金流入の大部分を占めた。上位 30 ファンドまで視野を広げても、株式型以外のファンドは 4 本にとどまった。

上位ファンドの多くがインデックス・ファンドや広範な株式に投資するアクティブ・ファンドである中で、非上場資産に投資する「野村マッコーリー・プライベート・インフラ・ファンド」が、2025 年 2 月の新規設定で 800 億円以上の資金を集め、上位 10 位内にランクインした。非上場資産への投資は、世界的にも広がりつつあり、日本でも昨年後半から非上場資産を組み入れた複数の投資信託が新規設定されている。同ファンドは、海外のファンドを通じて非上場資産を高位に組み入れる点がこれまでの非上場資産組み入れ投資信託とは異なり、購入と換金が実質的に月に 1 回に制限されている。非上場資産は上場資産よりも流動性リスクが高くなることに、投資家は留意すべきである。

また、「東京海上・宇宙関連株式ファンド(為替ヘッジなし)」も、昨年 11 月以降、米国の大統領選の結果を受けて資金を集めている。同ファンドは 2018 年の設定以来、純資産総額が 200 億円前後で推移していたが、直近 4 ヶ月で資金流入が急増し、2025 年 3 月には一時 1,200 億円に達した。テーマ型ファンドは、長期的な成長テーマを捉えようとするものが多い一方で、短期間で投資家から多くの資金を集めた後は、投資家の関心が薄れ資金流出に転じ、残高が減少し繰上償還のリスクが高まることが少なくない。同ファンドの今後の動向は注視したい。なお、テーマ型ファンドの動向については、[こちらのレポート](#)³⁾に詳細を記載している。

3 日本のテーマ型ファンドの動向 2024 年末版、<https://www.morningstar.com/ja-jp/lp/japan-thematic-fund-market>

図表 4 純資金流入額上位 30 ファンド（2025 年第 1 四半期）

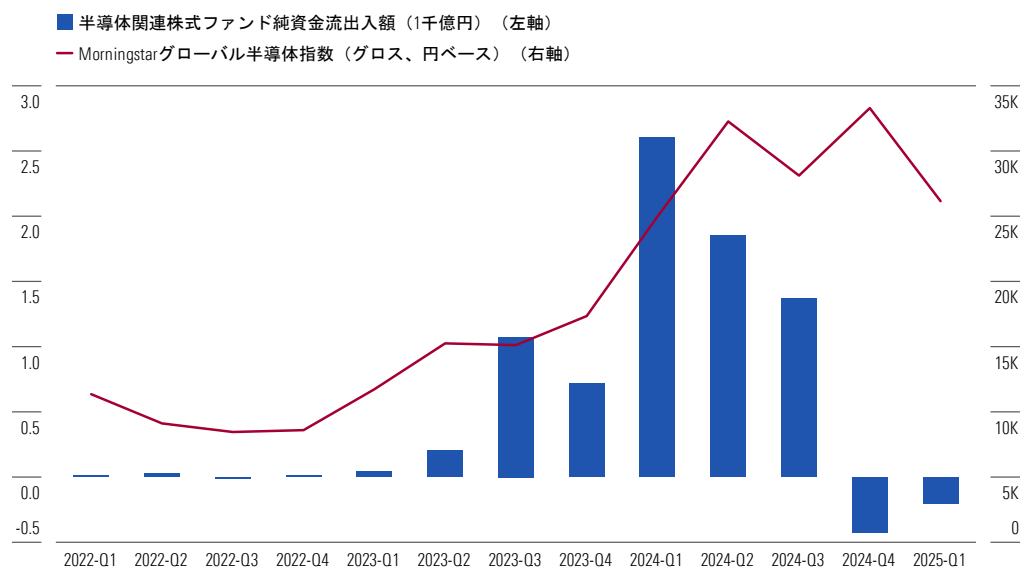
ファンド名	モーニングスター・カテゴリ	運用会社	インデックス・ファンド	NISA対象	純資金流入額 (億円)
eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	外国株式・米国型	三菱UAM	Yes	Yes	7,697
eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	外国株式・世界型	三菱UAM	Yes	Yes	7,427
アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 D コース毎月決算型 (為替ヘッジなし)予想分配金提示型	外国株式・米国型	アライアンス・B	No	No	2,779
インベスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	外国株式・世界型	インベスコ	No	No	2,183
iFreeNEXT FANG+インデックス	外国株式・特定テーマ/セクター型	大和AM	Yes	Yes	1,716
楽天・プラス・S&P500インデックス・ファンド	外国株式・米国型	楽天投信	Yes	Yes	1,180
アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 B コース(為替ヘッジなし)	外国株式・米国型	アライアンス・B	No	Yes	1,082
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド D コース (毎月決算・予想分配金提示型・為替ヘッジなし)	外国株式・世界型（除く日本）	フィデリティ 投信	No	No	1,049
野村マッコーリー・プライベート・インフラ・ファンド	株式・その他	野村AM	No	No	851
SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	外国株式・米国型	SBI AM	Yes	Yes	831
日経225ノーロードオープン	国内株式・大型成長型	AM-One	Yes	Yes	689
東京海上・宇宙関連株式ファンド(為替ヘッジなし)	外国株式・特定テーマ/セクター型	東京海上AM	No	Yes	657
楽天・プラス・オールカントリー株式インデックス・ファンド	外国株式・世界型	楽天投信	Yes	Yes	646
ピクテ・ゴールド(為替ヘッジなし)	コモディティ	ピクテ	Yes	Yes	644
SBI・S・米国高配当株式ファンド(年4回決算型)	外国株式・米国型	SBI AM	No	Yes	551
iFree S&P500インデックス	外国株式・米国型	大和AM	Yes	Yes	543
フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド B コース(為替ヘッジなし)	外国株式・世界型（除く日本）	フィデリティ 投信	No	Yes	530
One/フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド(成長型)	外国株式・世界型	AM-One	No	Yes	520
三菱UFJ 純金ファンド	コモディティ	三菱UAM	Yes	Yes	478
たわらノーロード 先進国株式	外国株式・世界型（除く日本）	AM-One	Yes	Yes	461
楽天・高配当株式・米国ファンド(四半期決算型)	外国株式・米国型	楽天投信	No	Yes	456
<購入・換金手数料なし>ニッセイNASDAQ100インデックスファンド	外国株式・米国型	ニッセイAM	Yes	Yes	452
楽天・全米株式インデックス・ファンド	外国株式・米国型	楽天投信	Yes	Yes	439
eMAXIS Slim 全世界株式(除く日本)	外国株式・世界型（除く日本）	三菱UAM	Yes	Yes	426
グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	外国株式・特定テーマ/セクター型	日興AM	No	Yes	424
JPモルガン・アメリカ成長株ファンド(為替ヘッジなし、年1回決算型)	外国株式・米国型	JPモルガン	No	Yes	402
netWIN GSテクノロジー株式ファンド B コース(為替ヘッジなし)	外国株式・特定テーマ/セクター型	ゴールドマン・S	No	Yes	400
フィデリティ・米国株式ファンド D コース(分配重視型・為替ヘッジなし)	外国株式・米国型	フィデリティ 投信	No	Yes	345
のむらップ・ファンド(積極型)	アロケーション・やや積極型	野村AM	No	Yes	343
のむらップ・ファンド(普通型)	アロケーション・標準型	野村AM	No	Yes	336

出所: Morningstar Direct および投資信託協会より Morningstar Research にて計算。

1 年前の売れ筋ファンドとの比較

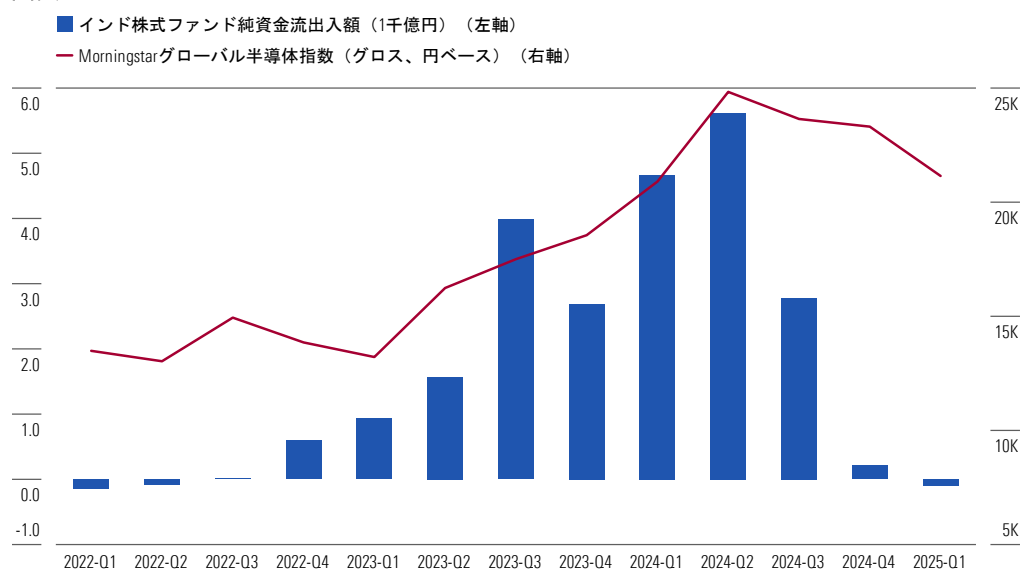
1 年前は、半導体関連株式ファンド、また上位 10 位にはランクインしていなかったがインド株式ファンドへの資金流入が顕著であった。しかし、これらのファンドは現在、上位 30 位にはランクインせず、半導体関連株式ファンドは 100 位圏外に転落した。純資金流出入額の推移をみても、昨年第 4 四半期以降、投資家からの資金流入は急激に減少し、2025 年第 1 四半期は純流出となっている。

図表 5 半導体関連株式ファンドの純資金流出入額推移



出所: Morningstar Direct より Morningstar Research が作成、2022 年第 1 四半期から 2025 年第 1 四半期。

図表 6 インド株式ファンドの純資金流出入額推移



出所: Morningstar Direct より Morningstar Research が作成、2022 年第 1 四半期から 2025 年第 1 四半期。

半導体もインドも、2023 年頃からブームになりつつあったが、約 2 年程度でそのブームは過ぎ去ったように見える。上の図表を見ると、市場の上昇が一服した時点で資金流入が減少しており、一見すると上手く相場のタイミングを捉えられたように

見える。実際、野村アセットの「野村インド株投資」、三井住友 DS の「高成長インド・中型株式ファンド」と同 1 年決算型⁴などは、2025 年第 1 四半期にそれぞれ 100 億円以上の資金流出を記録している。これらのファンドは過去 2 年のインド株ブームよりもかなり前に設定されたものであり、2 年以上前から投資していた投資家が売却したというケースは少なくないと考えられる。

一方で、三井住友トラストの「半導体関連 世界株式戦略ファンド」も同様に 100 億円以上の資金流出を記録している。しかし、同ファンドの設定は 2023 年 7 月であり、2 年も経過していない。長期的な成長見込みを訴求していたファンドということ踏まえると、現状は投資家から「売られすぎ」ている可能性がある。投資家は、長期の成長見込みに魅力を感じたのであれば、短期的な市場の変動に惑わされず長期投資を心がけるべきである。また、販売側である金融機関も、ストーリー性のある別商品への乗り換えを促すよりも、投資家への情報提供を通じて長期投資を後押しする必要があると考えられる。

資産クラス、カテゴリ別の資金フロー

資産クラス別に見ると、昨年からの流れは変わらず、2025 年第 1 四半期も株式への純資金流入が圧倒的に多かった。株式型ファンドへの純資金流入額は、分析対象ファンド全体で 4 兆 5,299 億円、NISA 対象ファンドだけでも 3 兆 8,234 億円に達した。一方、債券型と REIT 型は資金流出が継続しており、第 1 四半期も分析対象ファンド全体では、それぞれ 1,610 億円と 452 億円の純資金流出となった。アロケーション型は 2,906 億円の純資金流入となったものの、株式型に比べると資金流入額は極めて少ない水準である。

長期投資では、複利効果や成長の恩恵を享受できるため、株式などのリスク性資産を相対的に多く保有することは合理的と言える。しかし、株式型ファンドに資金が偏って流入している状況は、投資家のポートフォリオ全体のリスクを高め、結果として投資家が過剰なリスクを抱えている可能性を示唆している。今後は、投資家のリスク許容度に応じて、アロケーション型や債券型など、より分散された投資戦略を検討することが重要である。

図表 7 資産クラス別純資金流入（2025 年第 1 四半期、億円）

資産クラス	分析対象全体		NISA 対象	
	2025 年第 1 四半期	前年同期	2025 年第 1 四半期	前年同期
株式	45,299	34,879	38,234	33,684
債券	-1,610	161	212	1,119
REIT	-452	-1,265	148	167
アロケーション	2,906	1,151	3,114	2,508
その他	1,980	-280	1,715	293

出所: Morningstar Direct および投資信託協会より Morningstar Research にて計算。

4 三井住友 DS の「高成長インド・中型株式ファンド」と同 1 年決算型は 2023 年 9 月 8 日以降、新規購入を一時停止している。

2025 年第 1 四半期も、外国株式・米国型（S&P 500 連動ファンドなど）および外国株式・世界型（MSCI ACWI 連動ファンドなど）といった低コストのインデックス・ファンドを含むカテゴリへの資金流入が顕著であった。外国株式・米国型と外国株式・世界型の純資金流入額は、それぞれ 2 兆 2,628 億円、1 兆 3,679 億円であった。また、2024 年第 4 四半期と同様に、不確実性の高まりからゴールド（金）ファンドへの需要が増加し、コモディティが上位カテゴリにランクインした。さらに、日本株式への逆張り投資の傾向は今四半期も見られた。日経平均連動型のインデックス・ファンドが含まれる国内株式・大型成長型へは 3,109 億円、国内株式・大型ブレンド型へは 592 億円の純資金流入があった。

一方、純資金流出額の上位は、外国株式や外国債券の円ヘッジ型が上位を占めた。これは、過去数年の為替動向から、円ヘッジ型ファンドのパフォーマンスが為替ヘッジなしのファンドに比べると見劣りしたことが背景の一つと考えられる。しかし、世界的には利下げ局面に入りつつあり、内外金利差による円安の進行が今後も続くとは限らないことなどを考慮すると、分散投資の観点から円ヘッジ型のファンドも投資対象として検討する価値はあるだろう。

図表 8 第 1 四半期純資金流入出額上位 10 カテゴリ（億円）

純資金流入額上位10カテゴリ		純資金流出額上位10カテゴリ	
カテゴリ名	純流入額	カテゴリ名	純流出額
外国株式・米国型	22,628	外国債券・世界型（除く日本、円ヘッジ）	-706
外国株式・世界型	13,679	アロケーション・リスクコントロール型	-417
外国株式・世界型（除く日本）	3,717	国内株式・中小型成長型	-353
国内株式・大型成長型	3,109	国内株式・中小型割安型	-297
コモディティ	1,711	外国債券・ハイブリッド証券・世界型（円ヘッジ）	-244
外国株式・特定テーマ/セクター型	1,702	外国債券・世界型（円ヘッジ）	-220
アロケーション・やや積極型	1,295	債券・その他	-216
アロケーション・標準型	911	国内REIT	-204
株式・その他	630	外国株式・米国型（円ヘッジ）	-196
国内株式・大型ブレンド型	592	外国株式・世界型（円ヘッジ）	-188

出所: Morningstar Direct より Morningstar Research にて計算。

レーティング別の資金フロー

過去のカテゴリ内のリスク調整後リターンの相対比較により算出されるモーニングスター・レーティング別では、5 つ星、4 つ星のファンドへの純資金流入が引き続き見られた。アクティブ・ファンドに関しては 2 つ星、1 つ星からは純資金流出が見られており、これは投資家がファンドを選定する際に過去のパフォーマンスを参考にするようになっていることの表れであろう。

なお、過去にパフォーマンスが良かったファンドが、将来も良好なパフォーマンスを維持するとは限らない。この点を補完するのが、アナリストによる定性評価とその評価を模倣する定量モデルから成るモーニングスター・メダリスト・レーティン

グである。モーニングスター・メダリスト・レーティング別の資金フローを見ると、インデックス・ファンドについては金・銀・銅のメダリスト・ファンドに資金が大きく流入しているが、アクティブ・ファンドには同様の傾向は見られない。

図表 9 レーティング別純資金純流出入額（2025 年第 1 四半期、億円）⁵

モーニングスター・レーティング別

レーティング	アクティブ	インデックス
★★★★★	731	14,833
★★★★	6,360	7,338
★★★	2,682	3,340
★★	-1,004	14
★	-609	1
対象外	6,375	8,063

モーニングスター・メダリスト・レーティング別

レーティング	アクティブ	インデックス
🏆 Gold	20	11,072
🥈 Silver	635	7,150
🥉 Bronze	759	1,850
Neutral	8,249	3,700
Negative	2,160	121
対象外	2,711	9,697

出所: Morningstar Direct および投資信託協会より Morningstar Research にて計算。

まとめ

NISA の累積買付額は、政府目標を大幅に前倒して達成した。しかし、成長投資枠の利用が多いことや、売却率の分析が必要なことから、制度が長期的な資産形成に貢献しているかについては、今後の詳細なデータ公表が待たれる。

2025 年第 1 四半期は、NISA 対象ファンドへの資金流入が市場を牽引し、過去最高の純資金流入額を記録した。一方で、NISA 非対象ファンドの設定額も堅調に推移しており、NISA による新たな資金流入に加えて、従来型の投資信託販売も依然として活発であることを示唆している。ただし、株式型ファンドへの資金集中やストーリー性のあるファンドの短期的なブームなど、投資家の行動には偏りが見られる。長期的な資産形成のためには、分散投資の重要性を再認識し、リスク許容度に応じたポートフォリオ構築が不可欠である。また、投資家は短期的な市場変動に惑わされず、長期的な視点での投資を心がけるべきであり、金融機関は長期分散投資を支援する情報提供を充実させる必要がある。■

⁵ 各ファンドのレーティングは毎月計算されるため、モーニングスター・レーティング別については資金流入月の前月末基準のレーティング、モーニングスター・メダリスト・レーティング別は前々月末基準のレーティングをそれぞれ用いて分類し集計している。

Morningstar Manager Research Services ディスクロージャー（日本）

モーニングスター・マネジャー・リサーチについて

モーニングスター・マネジャー・リサーチは、運用商品の戦略に対し、独立の立場からのファンダメンタル分析を提供しています。運用担当者（People）、運用プロセス（Process）、運用会社（Parent）の 3 つの主要な評価軸についてのアナリストのリサーチに基づく見解は、モーニングスター・メダリスト・レーティングとして公表されます。世界中のリサーチチームが、投資商品、資産クラス、および各地域にまたがる戦略について、詳細なアナリスト・レポートを発行しています。メダリスト・レーティングは、意見であり、事実の表明するものではなく、将来のパフォーマンスを示唆または保証するものでもありません。

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスについて

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスは、モーニングスターのファンドリサーチ・レポート、レーティング、ソフトウェア、ツール、およびモーニングスター独自のデータの提供と、モーニングスターのマネジャーリサーチ・アナリストへのアクセスを同時に実現させています。銀行、ウェルスマネジャー、保険会社、政府系ファンド、年金基金、エンダウメント（寄贈基金）、財団などの機関投資家が、内部で行うデューデリジェンスを補完する機能を提供しています。モーニングスターのマネジャー・リサーチ・アナリストは、Morningstar, Inc. のさまざまな完全子会社（Morningstar Research Services LLC (USA)、Morningstar UK Ltd、および Morningstar Australasia Pty Ltd が含まれますが、これらに限定されません）に所属しています

お問い合わせ先

Morningstar Manager Research Services

ManagerResearchServices@Morningstar.com



モーニングスター・ジャパン株式会社
東京都港区新橋 1-1-1 日比谷ビルディング 6 階

©2025 Morningstar. All Rights Reserved. 別段の合意がない限り、本資料は配信者の所在する国においてのみ使用することができます。本資料に記載されている情報、データ、分析、意見は、投資助言ではなく情報提供のみを目的としたもので銘柄の売買を推奨するものではありません。また、情報の正確性や完全性を保証するものでもありません。本資料の内容は、記載された日付時点のものであり、予告なく変更されることがあります。モーニングスターは、法律により定められている場合を除き、本資料の情報、データ、分析、意見を利用して行いたいかなる投資の判断、損失、損害に責任を負いません。本資料にはモーニングスターの専有情報が含まれており、モーニングスターから事前の書面による承諾がない限り、当資料の一部あるいは全ての複製ならびに再配布等の使用はできません。過去のパフォーマンスは、必ずしも金融商品の将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。リサーチに関するライセンス利用のお問い合わせは+1 312 696-6869 までご連絡ください。